「図書室だより」

中央公民館内　9：00 ▶ 16：00

新刊本 11月

＼今月は12冊！／

※（　　）内作者名

東京店構え（マテウシュ・ウルバノヴィチ）／ブロードキャスト（湊かなえ）／わくわく！れっしゃでかぞくりょこう（サトシン）／ちびまる子ちゃんの読書感想文教室（貝田桃子）／ちびまる子ちゃんの分数・小数（福島淳史）／無限の玄・風下の朱（古谷田奈月）／色から読み解く日本画（三戸信恵）／静かに、ねえ、静かに（本谷有希子）／「しつこい疲れ」がスッキリ消えるすごい！休息術（中根一）／連続模様で楽しむかんたん刺しゅう（池田みのり）／子育てのイライラがスーっと消える魔法の絵本（加藤史子）／ギネス世界記録2019（クレイグ・グレンディ）

愛なき世界
（三浦しをん／中央公論新社）

「恋のライバルは草でした!」。洋食屋見習いの藤丸陽太は、植物学研究者を志す本村紗英に恋をした。しかし本村は、三度の飯よりシロイヌナズナ（葉っぱ）の研究が好き。見た目が怖い教授、イモに惚れ込む老教授、サボテンを巨大化させる後輩に支えられながら研究に情熱を燃やす日々。恋の光合成は起こるのか？

カルピスをつくった男
（山川徹／小学館）

「初恋の味」はどこからきたのか。誰もが知る国民飲料。その産みの親を知る者は少ない。その経営者は、会社の売り上げより、国の豊かさ、そして、日本人の幸せをひたすら願った。――国利民福を貫いた三島海雲を知ってほしいという思いでこの本を執筆した筆者は山形県出身です。

ぶんぱい

金山杉俳句会報　第四二一回

床にまで蓮華を写す盆の寺　星川　きえ子

孫の道鉄砲百合の如くあれ　岸　あき子

蜻蛉もじっと聞き入る子守唄
待ち侘びし庭の白萩咲き初めし　高橋　洋子

指立ててトンボと遊ぶ小さな手
秋祭囃子の音に急くこころ　鵜沼　よし子

白萩に道幅狭し六地蔵
秋海棠水面に揺らぐ鯉の群　伊藤　敏子

誘はれて町の温泉秋の月
刈田道裾だけ見せて月の山　阿部　サタエ

梨剝いてひとりの今日も恙かな
天高し定義詣での赤い橋　七日町　村松　奏風

遠縁をつなぐ供物や秋彼岸
台風の目は見逃さぬ破れ垣　荒屋　阿部　勝子

友と逢ふ生きる喜び野菊かな
秋彼岸供花に憶ひを込めにけり　荒屋　関　喜美子

想ひ出や稲穂で諭す祖父ありき
念願の秋海棠を咲かしめり　菅越　庄司　けみ子

台風の後和げる目覚めかな
コロコロト土へ感謝の芋の露　七日町　青柳　キエ子

旅の空すすきの揺れる奥州路
取り消しの効かぬ一言秋の海　七日町　柴田　栖静

子等の声鐘に混じるも秋彼岸
戯れて美風となせり初紅葉　羽場　坂本　徳太郎

運動会孫に我が身をふりかえる
置き去りや不遇に稔る畑南瓜　上台　阿部　一

畔に立ち撓む稲穂を暫し見る
戦国の歴史探訪秋ふかし　七日町　村松　奏風

遠縁をつなぐ供物や秋彼岸
台風の目は見逃さぬ破れ垣

森の子ども図書コーナー　№155

交流サロンぽすと内

『のどぼとけさん』
尾崎美紀／作
ささきみお／絵

ぽかぽかの昼下がり、じいちゃんはお昼寝中だ。「ん？なんだ、こりゃ？」ぽかんと口をあけたじいちゃんのノドの奥に何かが見えた。いや、ちがう。誰かがいる！おばあちゃんに聞いたら「それはのどぼとけさんだよ」という。どうやらそれは、男の子が徳を積んで一人前になったら出てくるらしい。ぬきあし、さしあし、しのびあしで、じいちゃんに近づいてみるとちいさなのどぼとけさんがいて、いきなりしゃべった！そんなのどぼとけさんがある日、修行に連れて行ってくれることになった。さて、いったいどこに行くのでしょうか？

～収穫の秋～ 金山さんち！

金山産の肉と野菜うまうまでマジ太りました　作画：小栗こぐり

道草便り Vol.7

山形大学の地域連携型サークル「Team道草」
道草だよりでは、彼らの町内での活動を紹介！
「金山町×大学生」で産まれる新たな可能性を模索します

「ふらっと遊びにこようかな」

戦後、開拓をした高台にある長野地区。現在は11世帯があり、開墾2世の方はごくわずかに。ですが、開墾世代の背中を見て育ってきた方の話や開墾記念碑によって地区に受け継がれている陸稲から水稲への食物の変化。貴重なお話を聞いてから、長野地区にこんなストーリーがあったんだとひとつひとつの田んぼや道路を歩くときにはありがたみを感じました。

そして、タラの芽畑もあるんです！木々の間に道ができていて、まるでトトロの世界。高台にあるから風も気持ちいい。そして、歩いて回れる広さと自然のいいとこ取りをしている豊かな場所。冬はどんな顔をしているのかな、と季節ごとに訪れたくなる地区でした。

開墾記念碑

貴重なお話を

タラの芽畑